



みささ

「みのりある学び」と

「さわやかな仲間」は

「最適な環境」から

令和6年1月19日No.47

文:岡本勇人



三朝町立三朝中学校 学校だより

"あいさつ・返事・はきもの"これは、哲学者の森信三(もり・しんぞう)さんが提唱されている「しつけ3原則」です。

「あいさつ:人間関係を築く基本となります。返事:自分の存在を認識することです。はきもの(くつ並べ):環境は自分で創ります。」すべて当たり前のことです。この"当たり前"のことを徹底して行うこと、そうです"凡時徹底"です。これらを意識し続けてほしいものです。(新入生説明会 校長あいさつで言いました。)

「みのりある学び」×「さわやかな仲間」×「最適な環境」
×「アップデート」

◆ 三朝中学校メディアルール



カテゴリーを"保健""学習""人権"とし、それぞれの立場でのメディアルール(全部で5つ)です。

"学習:課題や勉強を優先する。""人権:家族との時間を大切に。人が傷つくことは載せない"

この2つのカテゴリーがアップデートしました。

生徒会が主体となって考え、現状を改善するためのアップデートであり、自分事ととらえるため分かりやすい表現で、意識し続けることができそうです。

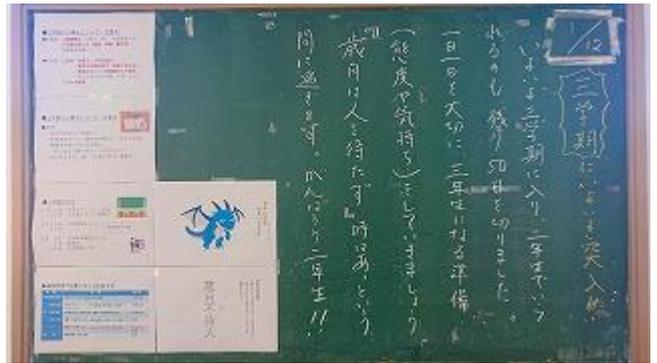
「みのりある学び」×「さわやかな仲間」×「最適な環境か」×「●●になる準備」

◆ 歳月不待人

一般に「歳月(さいげつ)人を待たず」と用います。「時間は、あっという間に過ぎ去ってしまい、人の都合などかわりないものだ。年月は、無情に過ぎて行き、待ってはくれない」という意味です。(参考:学研『四字熟語辞典』)

「三年生になる準備(態度や気持ち)をしていきましょう。」そのための心構えが併せて掲示されています。1/26にある進路学習「先輩に学ぶ」では、中学

3年生の過ごし方について、それを経験した先輩方から直接聴く良い機会です。未来の自分自身のためにも"経験者は語る"から一つでも多くのことを学び、学校生活などをアップデートして欲しいものです。



「みのりある学び」×「さわやかな仲間」×「最適な環境か」×「おかめ・ひよっこ」

◆ 福笑って何?

福を招く遊びで、江戸時代(1603年~1867年)の後期から流行し始め、明治時代(1868年~1912年)になると正月の遊びとして盛んになり、以後1960年ごろまで、家庭で子どもたちを中心として遊ばれました。(参考: Ministry of Foreign Affairs of Japan)

お面の輪かくだけをえがいた紙の上に、目かくしをされた人が、目や鼻・口などの顔の一部を自分のカンをたよりに正しく並べていく遊びです。この2つの



顔が使われたのは、「縁起(えんぎ)がいい、福を招くとされている顔で遊ぶことで、新年をめでたく迎えたい。」という考えがあったからだそうです。

先日、日本海新聞に「レトロゲーム(ファミコンなど)が人気」ともありました。これもいわゆる"レトロゲーム"です。本校では、eスポーツとして大人気です。(エレクトロニック・スポーツではなく、い~(良~い)・スポーツとしてですが…)